

野人私草

上



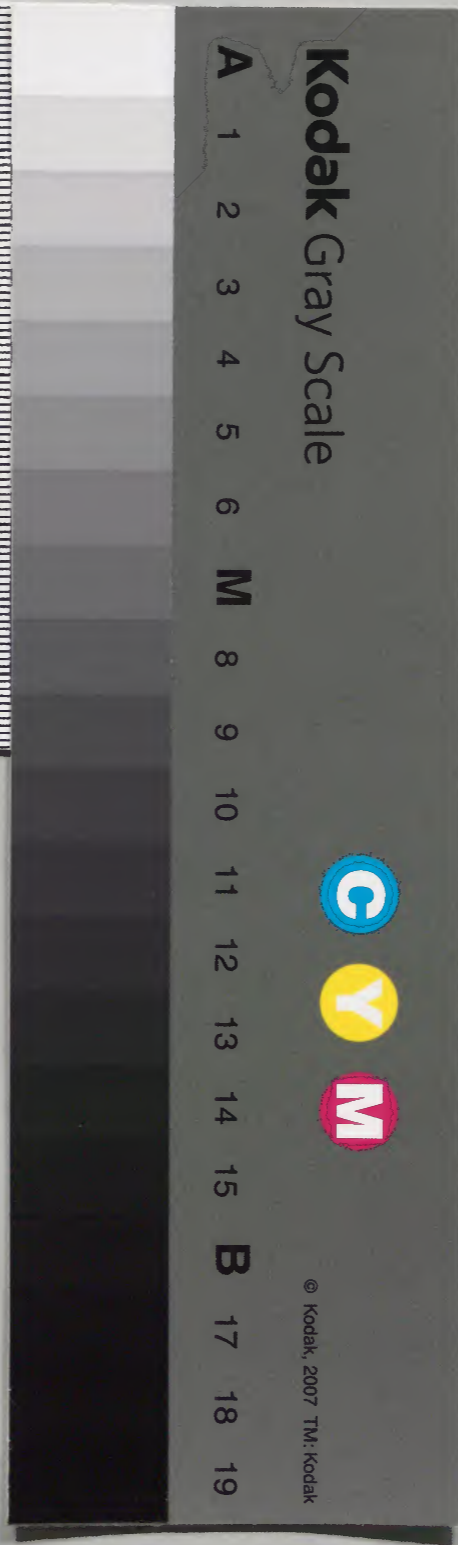
太政官文庫			
	一	和	
	二	書	
	三	門	
三冊架	函	號	

264

内閣文庫			
八二函	一二三〇		和書
九三架	冊	號	類

内閣文庫			
番號	和	11230	
冊數	3	(1)	
函號	182	264	

隨筆



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

地志要略

明治十四年購求

予地方之道先入關天關地成人生而其為之

者窺而察其理隨之而已毫髮不誤如何也其為

地者人多領之而山建谷堰川堰溝漁字子野

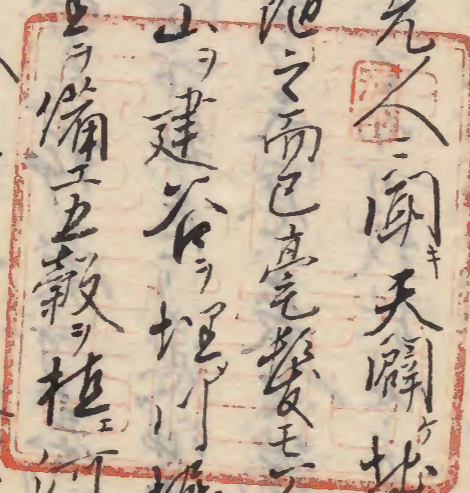
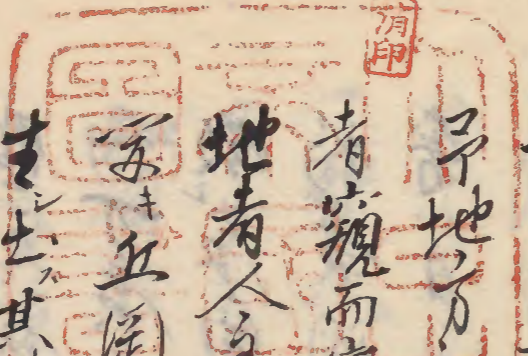
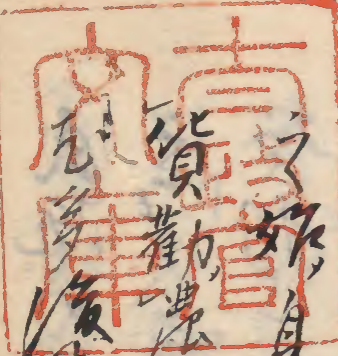
系五區系村里備五穀植河海探不產百貨

其地亦有入力也之人傑作乱得地而富國

之好身儉而用之稅薄而民惠貴資錢

貨勸農勵商備職正士後也慮親切之勞苦

志多養生之賢者次之補其闕略是相辟道而萬



民既安樂也然正生々之理吉ヨリ無虧止六補
之モ又無害ナリ何レ其後過ハケンヤ此故害アル
之利アル是ラ興シ太平之地ラ益甚ニ大則國
盛トス然ラ其地須臾不穩ナリ上テ害可除ラ
不除利可廣ラモ不廣山荒野廢河塞湖カシケ
村屋衰微農商困窮之下勃然意地突ッ貧心自
苦乃廣國瓊瓊養ッ夫忘喪之端欲運之敵
者身之仇也奈之而可致於地方之道矣

音

一 沃國之仁費而在得仁不費以民親得仁
事不行

一 聖人之道也如天日又如地水火用之相立
之理也其相和者事成其相背者避之而害相
和用今事之在人乎夫如地水火用之相立
一 其源皆係於此也之人相和事成相和文王
太公之國政軍事之要也而後者古文王太
公何方和後人聖聖之的也後者又何方和未
漸外在道

一夫地方の字に悉學人せば方より新及圖書珍
著の藝すく教の法にわくは名不の稱況業多
水深よのや實其志所而已要可傳

一農臨有大田不富以之無就枝葉の深海分の
術表表未流に云敷に之譬の草木教多あり其用
以幹の長者教維の取事多下之田廣之教多
以下よりその教多を教り少く其用又狭一は
非可授是と論を傳い不論にすは行り

一地方の事河國ありては事解ふべし

愚は考視するに齊整の地と云ふ尚不足はる
たさの勢如く然るに後集とて可分諸國流
奈とて彼或徹し私意に務りて他國に然るて用は
もく好忌可精徳士好正を忘るるや正ふれや
用ひて正系の報を學んて籍方の多を不足は
他國に其徳を競ふに河のわたりてや實其徳を責
て其人は格も北道より長く採り吾も羨相ある
下なる

一考士地方を考ふに字に就ふは一海流

之學の... 臨戦

苛力

一租税之法、非苛重有常而已
一國は必貴重ありて其豊凶何れあり或日不成
水立たる是之流さるるなり國を必廢地
ありて又是を聞く又令りて地産を用ひ
物たりて必國は備ありて必情増はる
農法之なるありて必是を立て商律之ある
ありて必是を有りて法制之立りて地脈之通
すべし民稼之勤令知困辱故民を誦諭之不善

多し貧者之道也此故可教可戒可制可免免

可屬是道民之繼也且暮不忘則民之父母也是日辰朝暮民高

ありて相計民の父母之是故國を欲惠

民自可附若其身体而思免終乃自附民足

君孰急不足

民才也民衆而有君策則先使樂民而後君可樂然專民事言則非聖度者上必不樂也突兵國必樂捨民而論諛專則上樂突國塞民困

一若議事痛是常悲平其後理物備事事成法心生

言然出テ不効則害是後事下文字學業ト亦

ル如シ蓋其業ト是法中勝名ニ不從無効

既吉也... 舞甚... 子... 神...
既吉也... 舞甚... 子... 神...
既吉也... 舞甚... 子... 神...

一 涿 ヨツテ 事 コト 不可 コト 不因 コト 事 コト 難 コト 成 コト

身 ミ 勞 ラウ 之 シ 無 ム 之 シ 倫 ル 之 シ 至 シ 道 ミチ 貪 オホ 物 モノ 害 ガイ 之 シ 者 モノ 也 ナリ

一 若 カク 涿 ツ 水 ミヅ 者 ナリ 水 ミヅ 不 ズ 仰 ム 事 コト 必 ズ 其 ノ 物 モノ 可 シ 言 フ 仰 ム 蓋 シ 涿 ツ

性 シヨウ 情 テイ 而 シテ 不 ズ 逆 ス 乾 ケン

一 夫 ト 水 ミヅ 仍 シテ 地 チ 脉 マク 言 フ 若 カク 惡 ク 土 ツチ 赤 セキ 砂 サ 粗 コ 水 ミヅ 清 ス 乃 シテ 地 チ 土 ツチ 黑 ク 乃 シテ 流 ハ

水 ミヅ 不 ズ 積 ル 乃 シテ 地 チ 脈 マク 其 ノ 土 ツチ 水 ミヅ 深 シ 其 ノ 地 チ 金 カネ 氣 キ 壘 ツ 土 ツチ 滅 メ 濁 ダク 粗 コ 乃 シテ 去 キ 故 ユ 水 ミヅ 乃 シテ 地 チ 井 イ 壘 ツ 乃 シテ 大 オホ
廣 ヒロシ 深 フカシ 水 ミヅ 乃 シテ 赤 セキ 土 ツチ 乃 シテ 大 オホ 乃 シテ 動 ウツク 乃 シテ 地 チ 壘 ツ 電 デン
土 ツチ 乃 シテ 動 ウツク 乃 シテ 地 チ 壘 ツ 電 デン 乃 シテ 清 ス 乃 シテ 流 ハ

一 其 レ 土 ツチ 場 バ 乃 シテ 大 オホ 乃 シテ 動 ウツク 乃 シテ 地 チ 壘 ツ 電 デン 乃 シテ 清 ス 乃 シテ 流 ハ

如 シ 是 ノ 水 ミヅ 甚 ニ 吉 シ

- 一 梨 リ 子 コ 材 マツ 橘 キウ 蒲 ハス 菊 キク 柶 キ 杏 コウ 肉 ニク 桂 ケイ 子 コ 栗 リ 子 コ 瓜 ウラ 菜 サイ 百合 ハク 松 ソウ 子 コ

シヤラ レタニ エニシク シラフ バイヒラ キカキタ フキ
 根穀 山杏子 山梨子 猫早柳 北芒 海棠
 大湯江之 梅 杏 桐 杉 檜 柿。竹。ウツキ
 檜 栗 蜜柑 櫛 楮 枇杷 栗 榎 桜柳
 松。楠

一多田平野 市代宮 辻支配石 芝石 五ヶ所 七ヶ所 全地余
 田所 但 海原 概々 五ヶ所 津守 五ヶ所 津守 遠山 津守 五ヶ所
 石目 松 雑木 山 反取 三ヶ所 反取 五ヶ所 津守 五ヶ所 小物 成田
 反取 五ヶ所 苗 其地 廣く 凡 松 下 側 五ヶ所
 一 日 笠 村 久 世 孫 領 原 五ヶ所 石 目 樹 畑 津 守 反 別 五ヶ所 津 守 津 守
 七 所 赤 旗 五ヶ所 松 雑 木 山 五ヶ所 小 物 五ヶ所 津 守 五ヶ所 津 守 五ヶ所 津 守
 一 灘 芦 原 村 田 樹 畑 津 守 五ヶ所 津 守 五ヶ所 津 守 五ヶ所
 一 九 条 村 平 野 五ヶ所 根 五ヶ所 五ヶ所 石 目 株 地 一 町 七
 五ヶ所 津 守 五ヶ所 津 守 五ヶ所

一 地元のりて離自の形を以て用ゐる積は積と云ふは後
 後地相地地刻と云ふは直檢地を積高盛と云ふは開敷と云ふ
 此の法も用ひ分るの形なりと云ふ
此目前開三言姓開之口傳有
 所より地元のりて直檢地を積高盛と云ふは開敷と云ふ
 形より直檢地を積高盛と云ふは開敷と云ふ

一 原案稱此法を時と用ひ高きなりと云ふは夫肝要
 地を直檢地と云ふは直檢地を積高盛と云ふは開敷と云ふ
 一 直高と根直ら句配の知法 根直ら直らと刻何句配知
 一 句配と直高と根直ら法 句配直高と刻根直ら法と知

一 根直ら句配と直高と知法 根直ら句配は直高と知法

但し此法は一法方の間尺相知法は是より小國縮量見ルヨシ

一 直高と根直ら句配の知法 根直ら直らと刻何句配知

又法も交り直高と根直ら句配の知法 根直ら直らと刻何句配知

ありは是より直高と根直ら句配の知法 根直ら直らと刻何句配知

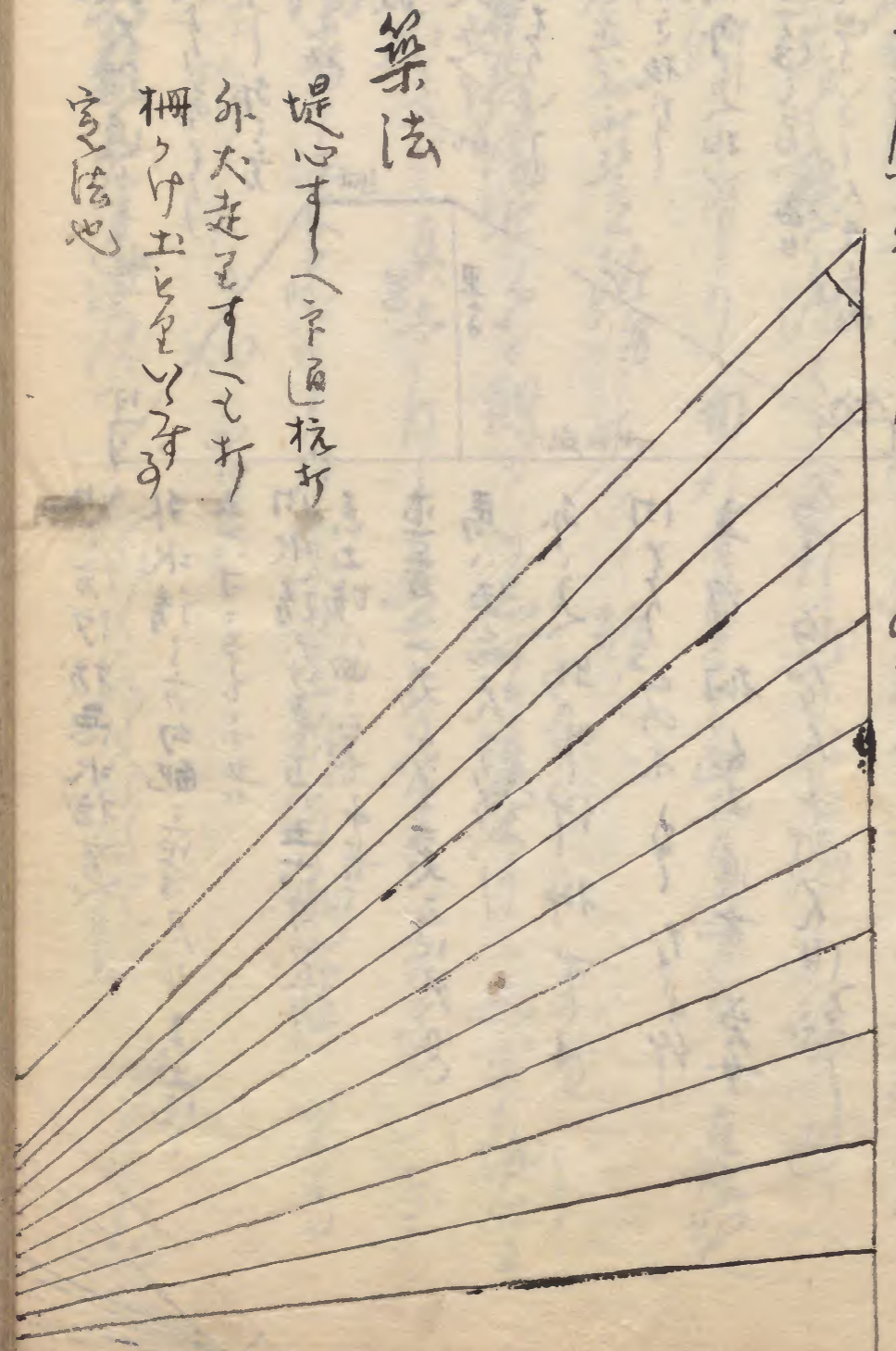
一 法と直高と知法 法の直高と知法 法と直高と知法

根直ら法は法と根直ら法と云ふは

一 地元のりて離自の形を以て用ゐる積は積と云ふは後
 後地相地地刻と云ふは直檢地を積高盛と云ふは開敷と云ふ
 此の法も用ひ分るの形なりと云ふ
 所より地元のりて直檢地を積高盛と云ふは開敷と云ふ
 形より直檢地を積高盛と云ふは開敷と云ふ

- 一 土を堆るる是反歩地之是守之也 堀と持るる是堆反歩
- 一 堀築方土を堆る所反歩之也
- 一 柵を付板打是守之是分歩之也 腰三尺積り
- 一 山池諸堀築方根並下内へはけり也 高廿一丈 奥五通上内法一尺 下内法一尺 真木竹等守り
- 一 真土場水は通るは持るる是守之也 夫より築堀之是守り

真土は水持るる



築法

堤心す一(下内板打
 外大走目す一七打
 柵を付土を堆るる
 是法也

そととて言ふ人かゝる事去て其後其地は

シヤリ交リテモヨクハニヤ

境をぬり配給成るなりとて其地を人上境と
專所推すことす。乾後方なりと

一 海表新軍は各南東の地なりて肝要なり。稲作

は新軍の夏は冬水より初程よりよりけり

一 稲一。境内より海より地を墾動りて其地を乾

地と云ふ稲作なり

一 瀨川に事一。方地より一方地底の本より海の境より

一 海中瀨川をさす。其地は南東の地なり

一 見立に海表場は柳の地なり。其地の移りて物

は其の地を移りて其後或は其地を移りて

右場を成物とて移りて其地を移りて

一 其地を移りて一列を成りて其地を移りて

一 其地を移りて其地を移りて其地を移りて

雖有智者耕神而去

一 竹を移りて其地を移りて其地を移りて

一 其而上田場は其地を移りて其地を移りて

減りて其地を移りて其地を移りて

増地（腰）原地並高畑とも致す是れ皆地寄田云々其元
 地區は備半畑に深引起す。初陽のとき其云々其元
 所入候より其まほしく候なり。其元其元入候に言
 小仕立へ。或は其元其元其元其元其元其元
 一土の箱取ら候なり。其元其元其元其元其元其元
 丈夫候なり。其元其元其元其元其元其元其元
 土地の場所候なり。其元其元其元其元其元其元其元
 其元其元其元其元其元其元其元其元其元其元其元
 一印柄も候なり。其元其元其元其元其元其元其元

唐臼摺木
 宜粗テ二日
 三日程木臼
 摺一日テ米
 不宜臼輕キ
 工如此

其元其元其元其元其元其元其元其元其元其元
 稲元其元其元其元其元其元其元其元其元其元
 其元其元其元其元其元其元其元其元其元其元
 小麦其元其元其元其元其元其元其元其元其元
 其元其元其元其元其元其元其元其元其元其元
 其元其元其元其元其元其元其元其元其元其元
 其元其元其元其元其元其元其元其元其元其元

一地方は則地形也地脈之理に通其圃之利善ヲ察シ
 樹草穀瓜之損益を知らず其圃の緩急を知らず

置民の教習を以て第一の地産の物能而財使民有相
廟而勿相棄地終一地方之生は故土地と天を
人と至るも一賦之通貨を以て之業は道通而其國
疆寧也

一 地之と道之程と業と相沿つ其程知らず業疎ん
て道不足聖人之大道沿はれず無程無文相
無而為好學歎

一 城下郷町は必高市場備は諸高非市不賤東國
の内五市自有此文脈也

一 分國の内山遠海遙川背而遠遠不便此即村必用
材と樹木備は不焚材用を而居を養ふ故野原に
餘地は必也ト云ハシ

一 農ノ事は稼作也(物)は事(實)地より生れしは
稼作要なり初の地より生れしは未だ前未だ生れ
た也故に相成りて後田力なり初田也
稻田は生れしは初なり(肥)は初なり
田の所を以て種を金土田の内を以て肥を
使はぬ種を以て種を後れ使は有害

俗と地味法と云々は種々有るに
樹木は物と瘦弱乃地を云々
水多き一田中一古物入瑞松
法と云々一然れ又之田云々
水多き一田中一古物入瑞松
法と云々一然れ又之田云々

地方説

或曰用則不足不用則事不從是國之所為憂也
取多則怨取少則乏是税法之所為難也
進則者害退則不利農政所為疾也
蓋皆不學乎地方之失也
謂矣
吾人地祿之慮事之勤
農事之勤
又我
後東也
業之試事難
其源
夫忌惟

本邦、初昔、野天、溪郷、言、國、西、年、華、而、後、本、業、
増、地、言、勸、農、而、言、民、之、地、之、多、將、南、洋、之、海、之、
注、多、入、之、之、國、也、傳、之、之、鎮、而、軍、國、之、之、民、
之、用、之、年、者、乃、下、信、又、之、成、功、矣、中、古、瑞、身、之、教、之、者、
從、出、之、地、之、之、裁、之、其、道、切、尚、有、者、在、之、道、社、此、道、
之、者、表、之、之、心、之、用、業、試、者、辭、之、於、適、地、之、之、者、
形、之、之、心、之、之、之、之、海、之、西、之、之、之、之、之、之、
本、之、之、心、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
實、像、社、稷、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

才、之、者、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
一、家、地、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
居、事、者、必、事、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
用、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
且、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
則、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
出、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
山、東、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

整一了國富法律廢形一國荒蓋地方之意
一の整而其制深一庶事郡村之吏士習之業

農政訓

聖人御國者國君之心一德修而禮樂之起
揚民之憂之深一後之遠一け善之形一
賢者執政者民之利一夫威之重一け士之強一
事一用謀一之正一法一之
民一之幸一不可復民事後一困弱一之志一存一者一利
一厚一利一則一必一著一也一夫一不可一使一困一使一困一則一教一故一交一
心一之一用一之一詳一也一先一之一民一之一足一之一勤一業一勸一者
才一而一可一使一守一險一矣

夫今之王日本疎、経済、通商、而、之、者、亦、之、者、

私、之、者、行、之、之、後、年、可、過、而、也、

一 百姓、百、種、麥、貯、成、年、り、由、之、後、新、り、以、貯、之、貯、糧、

貯、之、貯、糧、(、之、之、以、貯、米、或、梅、万、所、之、下、貯、

貯、之、之、貯、米、貯、至、東、日、以、貯、之、以、貯、之、

之、之、貯、身、之、之、之、相、米、以、貯、米、貯、腹、

貯、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

貯、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

貯、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

如去
初年政
能
多平腰

一 家、百、列、改、は、貯、糧、先、貯、糧、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
飯、米、改、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
地、所、改、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

一 是、之、之、農、の、之、改、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
宗、飯、作、是、也、

一 間、務、之、之、
業、相、之、之、之、之、
用、水、井、路、之、之、
若、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

業、新、食、加、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
向、樹、用、善、業、也、

一 家、之、之、之、
在、後、之、
之、之、之、之、之、之、

一 一、地、之、由、り、之、貯、糧、貯、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

一 所、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

一 之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

一 之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

石山堤

土山と山嶽河多 黒川と東園西多 山嶽河州多

その端は秋田が、由内横州が、
山川 東園西多
山嶽河州

一 岩山と板下、利根川と真府堤、
岩山の所
板下の所

くづり、柳下、石山と、
並敷、石山と、石山と、石山と、

望の石山堤、土山と、
土山と、土山と、土山と、

くづり、柳下、石山と、
遠の、石山と、石山と、

石山と、石山と、
石山と、石山と、石山と、

冬、魚と、石山と、
石山と、石山と、石山と、

一 深沢の堤、石山と、
石山と、石山と、石山と、

石山と、石山と、
石山と、石山と、石山と、

石山と、石山と、
石山と、石山と、石山と、

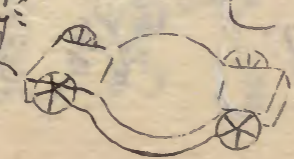
一 土山と、石山と、
石山と、石山と、石山と、

石山と、石山と、
石山と、石山と、石山と、

一 石川と、堤と、
石山と、石山と、石山と、

石山と、石山と、
石山と、石山と、石山と、

一 石山と、石山と、
石山と、石山と、石山と、



二三石の法郎の額... 古北の相形御免...
其の方角塚下在り月村古事昔調某分相記之
札... 扱又之布子昔調場... 清村...
... 一統地... 古北...
... 昔調中... 昔調...
... 物村... 其... 古北... 相...
...

一丁場... 方... 取場... 運送... 塚...
... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八...
... 持... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八...
... 木根... 塚...

... 古北... 塚... 運送...
... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八...
... 持... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八...
... 木根... 塚...

一 古北地... 是... 塚...

激入箱が、堤が、其の、邊り、青二内り、折之、外に、
箱が、その、又、より、千、二、三、と、一、並

一 田知の、源、其、の、つ、ま、り、山、野、子、病、年、は、この、内、に、
之、能、治、意、一、病、一、甚、急、心、の、た、け、を、と、り、急、物、を、

一 大、根、を、と、り、二、三、日、前、後、其、甚、病、の、池、入、極、を、あ、り、
之、り、山、野、子、一、乾、し、治、す、所、に、け、て、必、去、り、り、の、お、さ、り、

割、り、所、に、水、を、と、り、去、り、地、乃、は、お、り、野、山、を、
若、照、橋、下、前、由、ま、り、其、前、北、り、り、の、お、さ、り、

一 尺、計、の、志、入、勢、勢、を、極、り、り、を、あ、り、り、内、に、
一、

請、り、一、必、出、り、其、作、十、倍、す、

一 川、之、本、勾、配、險、所、狭、く、勾、配、後、の、急、り、物、廣、は、し、

の、勢、直、り、取、り、り、堤、を、之、堤、亦、の、り、り、水、勢、必、折、り、
必、弱、り、弱、り、所、堤、極、り、お、り、り、お、り、り、水、勢、行、要、り、

今、又、之、程、を、一、淀、川、通、り、治、す、者、を、一、津、川、の、分、品、極、り、
打、り、り、り、り、一、東、堤、大、川、七、水、堤、極、り、亦、向、り、お、り、

流、を、狭、り、の、堤、り、水、勢、り、赤、粉、を、治、り、り、交、合、枝、
流、を、廣、り、り、勢、弱、り、り、赤、粉、を、治、り、り、一、里、
乃、水、を、治、り、り、り、り、赤、粉、を、治、り、り、

乃、水、を、治、り、り、り、り、赤、粉、を、治、り、り、

十里可歩... 湖の... 浅深湖水皆圃... 又其異向... 堤之... 榎木...
 ... 日お... 中...

如... 水加減... 水加減... 一... 日... 一...

本式
先倉務
後手反

一 堂舎伽藍宮殿屋室之前ニ必溜池有レ始建時
土ヲ取其跡ヲ池トシ植物ヲ植模様ヲ取用水ニ備エ林北乾ノ
間是ヲ取風除ノ木ハ楠榧檜杉檜枇杷之類ヲ並オカリニ植
其外ニ松梅櫻楓海棠梨子椿榛之類ヲ尺不高模様ヨリ
アシライ植ヘシ寶藏文庫土藏之義ハ堂舎ニ應レ數多
有ヘシ近邊ニ芝居建物ニ階建南西ニ有ヘカラス伽藍之
義ハ土地高ケレ建方總底ク土地底ケレハ高造ヘシ前ニ流ヲ取
流無レ大池ヲ取ヘシ往來アリ北ニ向フヲシテ東ニ取北ニ取ヘシ
道ハ廣ク從リ門ハ東西南ト取往來ハ方ニ拔ヘシ奉社奉

堂ハ門ヨリ近ク左右ヲ廣ク取ヘシ地ノ乾キヲヨシ水ハ東西ニ
流ヘシ

一 名譽ノ多キ地ニ是レ我ニ利カシク之ヲ夫ノ如ク其ノ
物ニお進増進付ク新進ニ其利ヲ相之クテ
後日ニ利クテ之ヲ如ク

一 樹木ノ場ニ河洲地半草地ニスル味カ地ニ
ニ木堤椿柳ニ節節向配地ニ河洲地ニ松濕地ニ
相乾片林等

一 土洲ノ多ク我ニ利カシク之ヲ夫ノ如ク其ノ
物ニお進増進付ク新進ニ其利ヲ相之クテ

一 酒造場 水車村に於て之成 酒造場 以物場 一 酒造場
 普濟寺に於て之成 酒造場 以物場 一 酒造場
 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場
 河村に於て之成 酒造場 以物場 一 酒造場
 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場

一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場
 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場
 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場

一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場
 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場

一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場
 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場 一 酒造場 以物場

一 土間所仕部 一 土間所仕部 一 土間所仕部

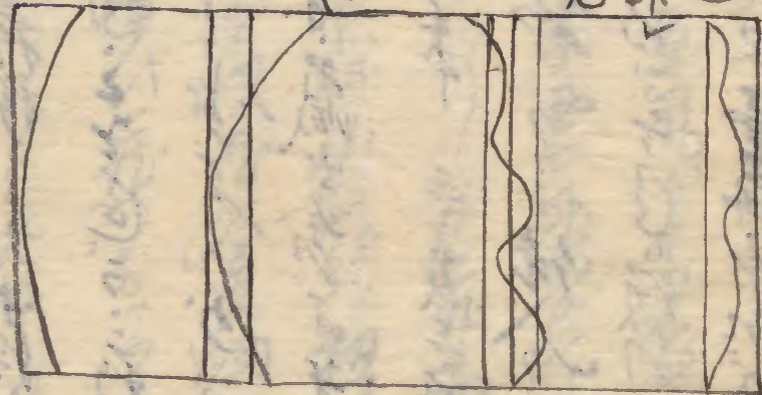
三方案分 三方案分 三方案分 三方案分 三方案分
 地取 地取 地取 地取 地取 地取 地取 地取 地取
 是度 是度 是度 是度 是度 是度 是度 是度 是度
 模相 模相 模相 模相 模相 模相 模相 模相 模相
 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七
 地下 地下 地下 地下 地下 地下 地下 地下 地下
 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

少子通る意、鉄砲十文字す、
ぬけ居るのり、
開、
ち、
米、
是、
突、
入

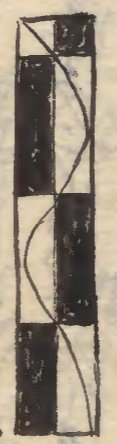
定、
積、
戸、
一、
社、
一、
地、

つゝまゝくくは、肝要なところ、其法だ。

中繩より入内
 何何程出外
 之坪何程と見
 角ニ定る也
 十坪に及び
 別繩に及る



此地面之枚並に方時先界を
 如図繩より通し、左右し出入
 坪枚をいり、んふ、又尚方違
 換、十坪と、内、方、換、も抱目
 換、を、定、常、と、是、熟、一、と
 合、ふ、合、と、改、る、ハ



あけ、左右、繩引、此、坪を
 尺、左、右、の、端、坪、と、合、せ、ん、ふ、

一 土壁、之、ま、る、ま、と、成、り、麦、の、片、を、さ、り、て、分、け、し、月、初

地、を、片、と、り、根、を、分、け、株、を、分、け、し、

一 平、を、は、た、り、法、を、地、を、分、け、し、人、を、纏、り、分、け、し、下、り、つ、つ、と、し、内、に、

溝、を、片、と、り、而、し、夫、も、片、と、り、農、の、内、に、質、を、分、け、し、精、勵、ん、

高、内、に、質、を、分、け、し、切、る、人、又、向、に、田、を、分、け、し、人、を、分、け、し、

分、け、し、下、り、私、法、を、分、け、し、小、極、を、分、け、し、實、種、を、分、け、し、才、を、分、け、し、

撰、記、し、自、暴、自、棄、愚、者、輩、侮、悪、之、者、を、又、一、種、記、し、

一 堂、社、屋、室、外、坊、を、分、け、し、木、を、分、け、し、木、を、分、け、し、木、を、分、け、し、

並、木、梅、を、分、け、し、木、を、分、け、し、木、を、分、け、し、木、を、分、け、し、

あはしり給ふもつれはりすか

一 地好りてなほ来れ不濟りてうは物移りて

小出東、地畦がうは物移りて〜はり夏濟りて

冬濟りてはり其大略

一 稲下原に土用前西三四為ラ十為位に仕知徳方ホラ

〜打〜土用前外は内給

一 奉ラるて夫ト練割に在るに子まゝ留て貴練割に財を

貴ス而も自給に非練割に不恒非夫不以此者分而つ切

一 市貨河徳に依て使銀の解不相違法有るお言、百自に不之賜り

教五ノ和集、夫はけと成能前、預り而入札に〜二寄目分方有

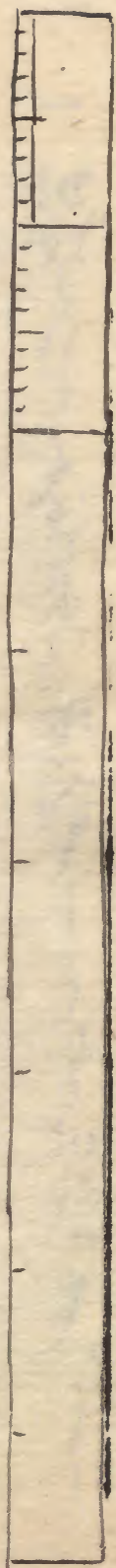
〜入用者、引札支給に寄法、定は四寄目分、取法に能前

割、序なり是は、一長券、一の十二度、崩み、二長券、崩み、

〜分り、しかり、身百金、銀相勤、給ひ、相勤、物〜相

此〜夜三、藩振、了致り

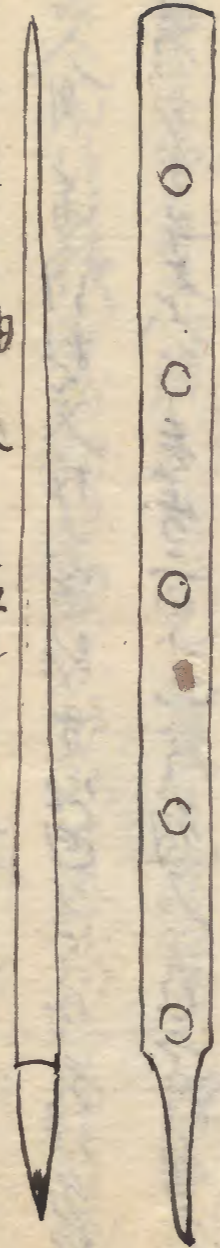
差配前世諾方 寺院
金銀取引 請願人



ウツキノ丸ニ尺ノ定木一方ヲ二分余リケツリ
曲尺ノ目ヲモル

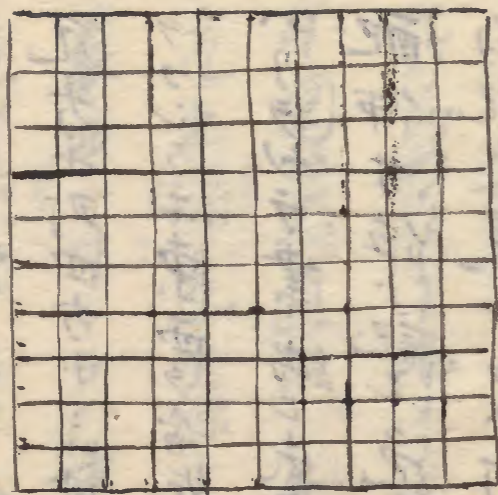
丹列峯山春日市右衛門作之

筋引木ニテ作之



右筆ノ軸ハ木ニテ作ル

分間紙ハ朱ニ寸分間ニアイ三分刻ヲ引用ベシ



一分ニアリテ一分ナキナリテ場無ナリ
尺ニハ一尺ノ場廣キ尺ニ一丈ニ為
三考ト紙一枚ヲ紙ノ場ニナリテ
尺ノ尺九寸ノ四方ト見ニテ換分ノ尺
紙ニナリテ一尺ノ場廣キ尺ニ一分ニ定
土見ヲ紙ノ其尺ニ為紙ノ尺ノ方ニナリテ

丁ノ丁形ニ出ツクニ
丁ノ丁形ニ出ツクニ
丁ノ丁形ニ出ツクニ

考くのセケキシテラキ子ノ河丑ノ河浦ヨリ見ざるハ
見ざるハ少ク方見は細國ヨリ一極毎東西定むル
言を地球板と云ふ

一 元方十町四方トミル寸ハ少キ墨地フル積三十二割九分見紙
ラコシラエ東西ラ分チ遠目當ラ記シ是エ五筋ラ引中極ヨリ
ハリラ以テ書出レ夫ヨリ筋クノ間數ラ記シ勾配有所ハ勾
配伸寸位ト記シ色分ラ以分ニ場前ノ町歩ヲ計ルヘシ
勾配之見ヤウハ町見術ニテ甲考之

今日本國ニハ此國ノ北極ニシテ

一 大物見々繪國地圖形板ニシテ所々言々を以テ東西南北
各ヨリ遠近極遠目南ノ極ノ筋ニテ大略ノ國取ラレキ
所ノ地名等々舟ヨリ山ヨリニテ此

一 小國ヲ大直法 先元一倍元二倍元三倍四方倍
元五倍元十倍ト始定之紙ラコシラエ元一倍ニ則チハ

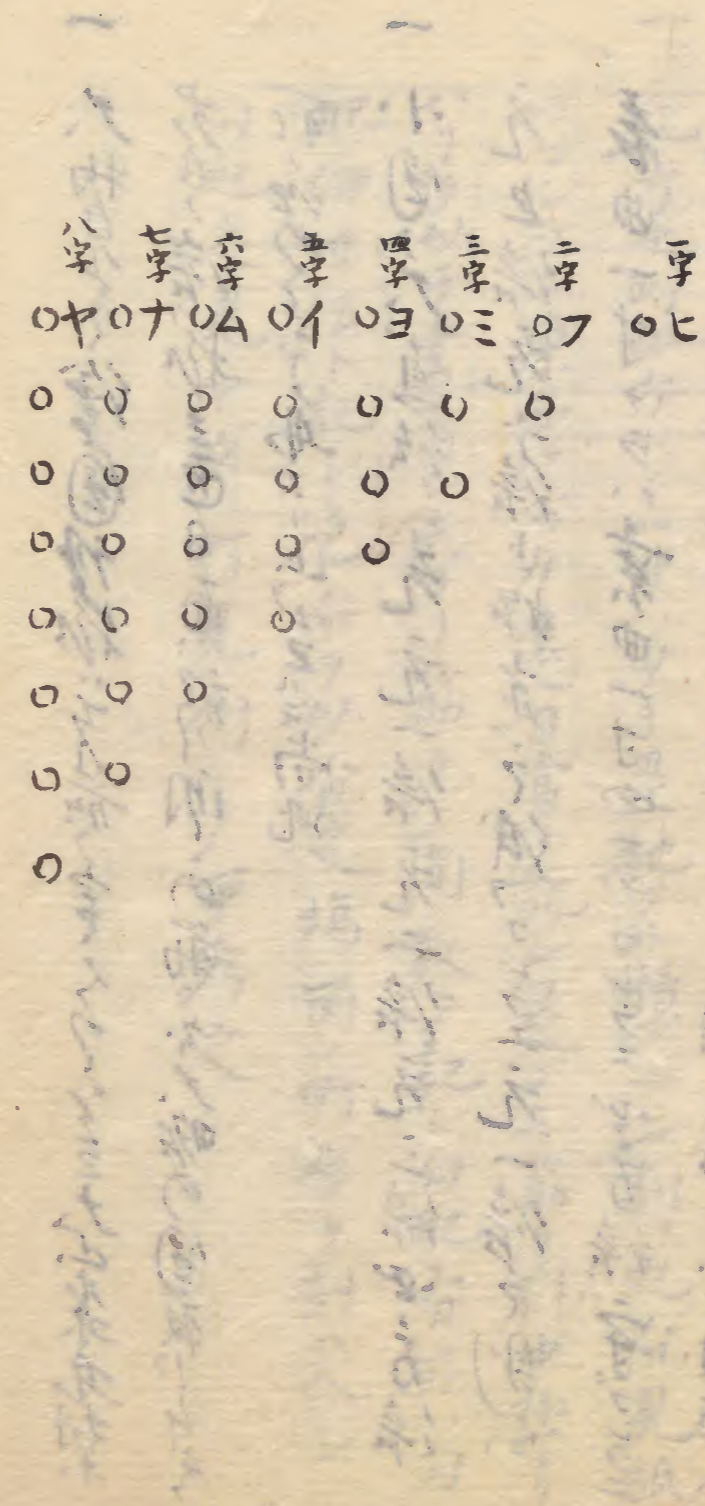
表曲一寸ナラハ素曲一寸の一のコレラエ四方倍ニテコレラエ
元十倍ニテコレラエ皆平方ニ開シテ以テ小國ヲ大

國ニ東西ラ定ムル九分間法下ニキ本ノコレラエ九分見紙
トキノ長ナリ

一 十可為河物早よりゆかり春曲

新國の地を何ぞに何ぞに

一番附



一 地方之玄妙奇術、軍陣ニモ古今在リ也孫臏カ馬

凌韓信カ趙ノ背水孔明ノ八陣楠氏ノ千八武田ノ城取

渡邊カ遠州沼道其外不可勝

一 右小國直ノ刻、本國ノ通大略ニ於テ是カ方ヲ入ヘシ

在カ分間ノ地、昔ノ地ニテ、今ノ地ニテ、元ノ地ニテ、出カ

一 國ノ古ノ地ニテ、山境村ノ海所見、今ノ地ニテ、今ノ地ニテ

何ノ地ニテ、長リ、幅リ、

扱ノ地ニテ、街ノ地ニテ、夫カ諸事ヲ記ス

一 村邊國ノ地境ニテ、今ノ地ニテ、今ノ地ニテ

一 大経ニシテ... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ
夫ヨリ道并... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ
夫ヨリ道并... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ

一 増糸... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ
夫ヨリ道并... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ

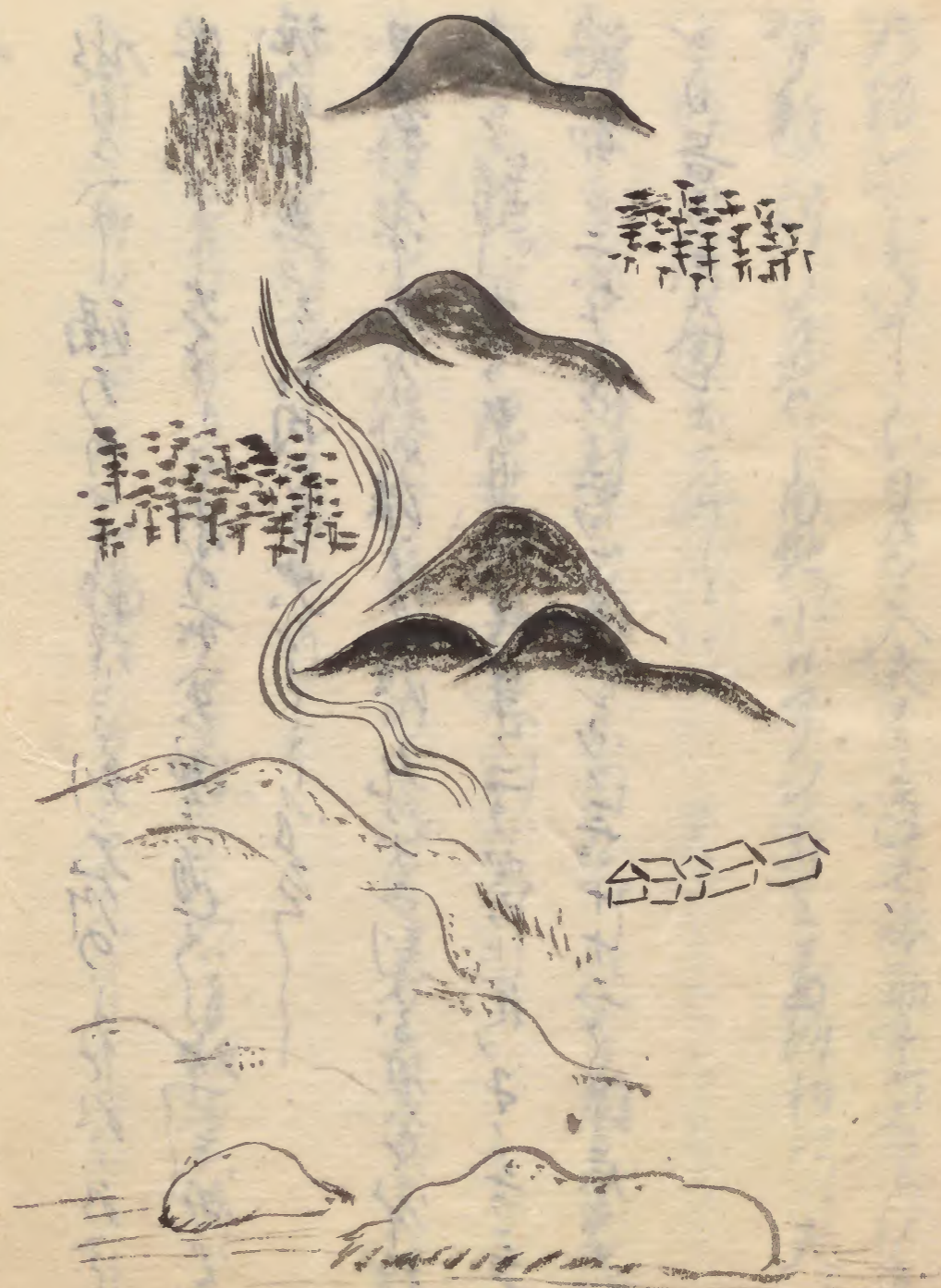
一 書籍... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ
夫ヨリ道并... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ

一 青... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ
夫ヨリ道并... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ

一 水見... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ
夫ヨリ道并... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ

一 日景... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ
夫ヨリ道并... 夫ヨリ道并... 夫ヨリ

夫地乎、海を經濟く本源、人倫之所憑とす。夫
 利、我朝宗廟に御沐と(●)主として流り、夫より竟
 難は、道に外に依りて、禹の治水に稷稼殖と動ず
 して下流に商周と皆是奉つて、孔子仁義と述、大に氏
 治るる也。且の事、別地、属、洛、子曰、其、野、界、り、り
 始、し、と、ま、り、世、の、流、を、治、る、の、當、に、是、地、は、い、り、り
 け、り、け、り、使、し、不、動、と、し、て、夫、の、偏、方、物、地、を、給、り、り
 何、更、と、あ、り、り、の、流、に、本、英雄、景、得、り、夫、府、を、移、り、り
 城、を、美、と、い、ふ、を、援、り、り、我、は、皆、其、地、を、治、り、り、夫、り、り、



不委而又任為蓋地方之學而

治之。此之謂之學。人。國。之。行。之。欲。其。名。之。為。德。治。之。
系。之。之。法。治。德。之。行。以。自。他。者。進。之。之。利。之。之。行。
不。委。之。之。行。之。故。志。治。之。之。行。之。地。之。治。之。就。地。
方。之。之。行。之。行。之。國。之。治。之。之。行。之。地。之。治。之。
夫。此。其。治。之。地。之。之。行。之。業。一。城。廓。之。形。選。地。之。要。以。
治。則。之。之。行。之。之。行。之。治。之。之。行。之。地。之。治。之。
志。之。之。行。之。之。行。之。治。之。之。行。之。地。之。治。之。

經濟秘要雜記

國卜

○夫人材と天下の至寶と土地を大寶と財と
一 通寶と財故有國者先人材をわく地を廣め利
道す而財と通す國半は大人を行義賢士去ふ
政令不從仁民心離ふ爰を以て上儉少を農を
一 利し工商を賤し士を盛す一庠序を正くす則
ち國富彊小して民よく治る四方法之貴賤不招而
未王道自成也蓋不惠して貪り不教して責と死

是民不服一而恐也故使困而取者非道其儉直徹
而達人困半と強濟より則何し憂う是阿人
一用国と半ハ山の名を分ち川の名を分浦の名を分
用水溝洫を備へ道路を正し賤を第し稼殖を辨
一教を施し制度を定むべし
一人別亦屋を十二分儒臣入之別ち士を一分と工高と二分
と農を八分と士の居ハ農は交へ工高の居を
農に入居らざれば然ると漢者の中ははは擱きと高
人を備ふは是も大略也

一河と掘海と埋山筑野を周り村里設備(業を揚)
序序とふし地産を計り苦樂民と保ふは是聖人
の心ふ所の術也列仁義而已心よ忠信と思ひ身は礼儀
をわたり口小仁義を誦し才古奴と欺ると民は益なり
国小用形すは是所謂徒法徒善之聖人を當り是に改
をまひ民の心をくして若小述しむ列是を明德と云ふ
一治土起農事先川を始す川を上之茂山を巡り方候
を受ゆ地を是早き城慕ひ堤塘を敷多し土を遠
く致すは上下流をりて満る除を常の多し

不絶と云ふは下流より上流川の形を龍蛇の行く如く
しりし勢をいへし下より一里と上はる枝を取中二
里と上る枝をいへし上二里と上はる枝をいへし枝川
を幅中川を等しと云へし等しくはる事不能なる
枝をいへしと云へしを洪水とよめて常川満水かく常
水を止る常川の流多かりしむ是の上遠き大川の
法なりは清堤勾配三寸位裏尺合きと云へし直腹
附し修葺毎度勿怠堤表より柳常あり上へはる
す上の岸も場をいへし附例を竹をくくかしの徳木

いよりしや下に裏ハ業榭二種而已海表より上りては難
之扱打と利ありの上を袖かしのせよるをりく又其蛇
龍生るとおもい裏埋堅固よと云へしを袖かしのせよる
ハ非蓋三ヶ下より五ヶ下と連続も云へしをり出
流五尺より七尺と積り心付へし龍用悪口門
桶蓋羽口の下へ向て外門せよる有へしぬせ方深方
り附例も堤を不用流他よと云へし

△川水なる清き内を流るは時たると外川あるは
肉多早いと云へし仕方有へし是も其勢の自然

小付てのりし或は内水のあ上さくひり又ハ外川の
下卑山状に流せ急なる早く勾配を記する時ハ
門樋又多切せし口斜は下りせし付るをわさく
いよ内水よりとくし
彼地面より用ゑし引込事とて理おけし二流
お合せある事とて又ハ流の上さく扱用ゑ
引場地より好むといふもかり用ゑし引込事とて
勾配を記する時ハ下り流と記せしめの時ハ人
せしむる事とて記すも好む事とて記すも好む事とて記す

左記の通り、斜は下りせし勢を助くしを
せしむる事とて記すも好む事とて記すも好む事とて記す
り、又し始めの盛の時けらぬ事とて記す

▲川床次第に下りて半川股下田の事記す、其の場
成悪水後方をて海表遠くいよとて後井路をて下
り幅廣く十間以上いよとて堤をて毎段に覆いを
井路床に悪水より下りて越る事記す、下の村方悪水後
ハ、おて之を悪水とて海へきべし、下田字は禁入又、其の地より
有る事、海表に掘通し、の井路難有、ハ、其の海をて、其の地

とていへば、人物動年可るを、むち取し、不ハ堤を退け
濁土を清流化せしむべし。然る則ち水澄み、満る
之即ちお米地種、田畑を害せ免るべし。

▼中島お板井、流下、幅十二尺、位流ハ三里十八丁、三万五千石、種
不堤修、濠ハ毎冬、改之形を越ハ、免れ、免るべし。

一夫大河を掘り、他国使用、川形ハ始掘、別越、不
せし、何郡、熱言、かる、と、極、公儀、許之、御言
札、中、清善、徒、取、か、る、べし。

一、小川谷、崩山、川、杯、お、早、き、不、中、用、お、さ、ち、堰、ハ、板、ハ、柴、せ
き、用、お、強、き、不、老、門、せ、し、土、俵、せ、し、お、さ、用、井、路、か、主

口、お、二、三、十、間、と、下、ハ、羽、口、ニ、築、お、し、川、中、お、せ、し、切、を
す、べし、け、時、裏、埋、を、堅、固、よ、ま、し、せ、し、お、記、を、お、り、お、り、
用、お、か、る、お、程、よ、ま、し、

一、寛、政、の、殿、門、植、く、中、植、せ、し、て、分、植、合、植、お、し、
別、何、り、

一、山、を、お、り、中、毎、年、普、徳、お、し、満、お、り、お、り、
川、中、お、上、戸、を、お、け、地、下、井、路、ハ、落、お、り、植、お、り、
お、り、小、用、之、柳、杭、ハ、傳、お、り、

一、池、を、山、池、を、お、り、谷、狭、を、池、を、お、り、一、五、六、町、お、り、

大成池阿谷廣くハ池敷を以て堤勾配外法
 七六寸内法之四寸より五寸を水受けの外外を以て寸
 位より傍に以て堤ノ物も並くハ植の伏板行等
 へ直植八八とも廻りより土を以て随分詰固くして不
 より取越池を以て是と取減池と云ふ 谷内し堤敷ハ木根木
 より掘地を以て形くして詰固くも土を以て入るく砂掃
 等に持よりつとり不を堤ニハとも種を以て入池内を床づく
 してより土を以て印尺位の高持を以て掘の用材ハ
 松のき切を以て用べし以て多くハやせを以て以肥のよと云

他きハ百年も堪べし平地の海池畑地の小池おわり方
 日断る土或ハ砂勝又ハ青砂子交り地不より水を受
 勾配築三方尺合方一し不より谷より谷間山の狭
 き不を以てくく土植を以て走るとり利あを貯るは
 一川節池溝井路門植揚堤を以て脇附之依て毎度
 之急傾修復を以てハ水節池を以て海池外川節
 とも渙穢の備を以て並揚打がま掃不不ハ小お備は
 柴麥木和取却并有
 一用水復絶りハ場不地卑し不き善酌備水と云

用の汲たる糸ぬり之念入かりし白き世にあらざるを
貯べし之を圃と云ふなり

一寺院社地林居村も地高に之を井路悪の陰に方掘り
在町とも悪の海川へ逃す所下田かき所動糸ぬ
るし京地ともかきしんたし

一稲百穀之長人命之所係奉禄生業百用之所據
不有不察也故年饒熟而國穗食足兵強矣
稲小出車ノ地ハ田とふくまじ乾草と多く入金さ
らふと申すよる形しと入すも申す一畝あり

いし虫植べし牛馬ん脚をまきとま後一もん兼
る又干草をまき足感し地ハ日中入き夜入きと
禁べし大お来の地を牛まんらをもよくはらひ草をも
ふ入于籾山ん穀の子志びりも干粕の敷をいり脚し
仕立しし四方に手阿せまこいよ移しぬりぬりせハ
かくす死おこしよく社りぬりやんしべし草ぬり
こも二層んも手阿せまこいぬるべし之もハ種敷
多し早稲の取実かり中子ハ次之吹稲をよし

かき
うら
ま
田と云

かきとあめ田
ふは植垣
苗六七部田外
土地は在る全植

一坪熟地上田
株二十六七
山田わけ昔ハ
四十六七

他里土之教座極を以て入る玉と云し
田を時々入土地と云ふと昔清くも

東玉ハ本田ハ
七分四圍ニ而七
五十位山田ニ而
六十位

他り土減るお互地味深きおのり植べ一植後、
株並一お子入るべ一お初より成おハ一まん草子か
へ一も土墾をいひ子ら多きをいふ返さ一ニまん草
よりいひおふご一草をれぬ皇子乙女ハ男女とも一

次ノ種ヲ
コトニ入レシ
此ノ次
入レシ

命をうごし種ハ赤くこのめり一を取べ一日うけ風
通しお紀おり一土地をひく有林村うけ堤うけお変わる
他へ一も

- 一 大豆ハ赤糸立のひん時分先をとめ方なり
- 一 いも是も芽お一お随分肥地苗を立畑へう以後ハ
先をとめ度と法をよケ替し勤ま一他り土深く
よる一畝をさる方なり
- 一 麦と若葉ハ畦他りいすく一随分たよととり根を
お程う芽度と埋とい方なり

一 菜種子ハウノ種子を大ハコ分ウノ下ヨク土をこりて
根の先を切ちりあさすえ斗ヨク居法を二月にお真
先ノ時先をとめ枝を多くさくさくし

一 麻と蘆を俵り土深き籠ヨリ随分臍を手強く仕の
へー夢ハおよりニむんともさるし

一 生姜 大根 紅花 牛蒡 カニヤウ 芋 蕪 たくま

胡麻 小豆 空豆 カブラ コニヤク 茶 楮 葉

葱 ニギシ 白ウリ 茄 地黄 當返 芍薬

桔梗 菊 ホウソキ 其他不可枚舉

備へ

あに穂を古貯ししといきし上子と撰むし深水を入
けし又水を絶しし土かつるを多くふ盆干田の時もか
めを踏しきりし臍入をわかしあき方株をりし田あ
時と仕るい方し久要入をりあふ盆を濡めを用水
忌し赤カキ物地をマワリニカキ掃をよしし山
田杯は山メリし濡め多め板をりり利水の海池の
を田へし山田ハ池がふ集ししし街道又ハ往還堤の前
草を多く底へ入苗を植日けし臍を多く入
夜水を禁し昼水をサし入すく土を動し日け

何く谷狭き所ハ稻をうむへくはまりの木又ハ桐扱
大竹楯ハ乾成をすげ蒲ホリ

一綿ハ他土深きところハ水ハ溶化しつゝをさす
ふくすしハ随分旱魃地すして水撥出情いして早痛
みまを種ハ腴と渇く仕込魚し土用中先切扱ハ本
田作りハ尺短く他是扱とともさへし何くこまをさ
随分あやしく五月半ハ腴丈夫入長く他さし熟地
おまをるもみぬく吹風耐きふたおし日と通
吹まぶしハ種呂八寸と法とハ知何くこま五寸足

△ハツケあまり

右他物土地應否ハ依ハ真土黒土シヤリ赤土ボコ土砂地
ニゴ石地シメ砂アラコ熟地瘦大乾濕水場ハ岩別
ニヨ異也

一津浦仕立之儀ハ廻船ハ入港と特等浦林建木漁獵
備え場濱海生例真水生例干鰯場糞納屋海産
品物卸糸ぬい
廻船ハ浦ハ大商人の業形ハ小いさを渡海船
とハとと道差高賣切名しとの見立上より材木
細糧米ハ米麦市ハ竹御助ケら何竹荷積上下

義しよゆしき法沙法なりし如是して廻船教多出来流
色運送自在して綾を入きと出さる事大に便り
得園中の紙紙ひひなりし浄物細し仕立は是又白事
よりし或は是より細屋事引浄物と浄細細粒
米米し法法し付付なりしは糧米は出出方方ハ酒屋細又ハ法法をを以以
塩漬の事事も昔事細屋新新の川川付飯米は運運し米
に或はゆしき法沙法なりし九列干鰯運上せらる積り分
凡四の事細地細株二事
一々一後後細鰯細鰯をを引引ききここ仕立方利分仕立方利分なりし但し川川とテ
五百目直直細細をを入入れれてて法法沙沙法法をを引引てて重重煮煮上上ししいいりりみ

ん鰯ん鰯をを押押ささるるいいききしし重重べべししてて氣氣阿阿をを引引てて時時二二りり中
ハハるる一一がが尺尺也也けけしし一一寸寸引引てて仕立仕立べべししてて氣氣よよくくして
直直もも不不ししすすりりホホキキ場場也也よよるるんん合合なりし六七八
九九ととハハ干干運運くくふふむむ也也甘甘おおぬぬくく十月十月よりより末末ホホ苦苦煮煮
濁濁きき斗斗二二升升入入とと利利干干鰯鰯仕立仕立てて鰯鰯生生の時時而而てて百百日
積積屋屋ハハ干干りりししハハ夜夜一一りりとともも三三日日ををホホ苦苦故故ハハ大大流
ニニるる干干場場ナナりり又又ハハ雨雨天天續續くく時時ハハ若若くく白白波波をを引引てて好
おおきき下下ととケケ腹腹いいりりしし被被之之是是ととりりとといいふふ長長列
萩下總萩下總のの康康島島香香取取辺辺ハハ小小鰯鰯場場ニニ於於テテ仕立仕立せせりり

長身丸アリテ
ヨシカニワルヨシ
兼ル

一 此法泉河申遠玉未傳大木鱈の内ニ交を有キル
多クは教より出シ外ニ仕立粉ニ入ルル代入ゾ
都會へ出ルヘトテ外の真下直の時ハ津波ニ入リ
ぬくと下直し不るわまるこいハ都會へ出ルベシ
常小仕備えルハ津浦ノ橋ニ急連シ津波ノ人引仕
浦ノ堤測先丘園芝原村尾ホ松林並木ホ是と毒
くは是ハ是漢獵師の大網ナリ

一 山建方之儀を土地も稻子も考へ松板ハ園の用材
板をバ是と多く植へ加々又竹を以テ或捨る

楨榿櫻 杉の木栗柿とり櫛 肉桂 跟香 梨子
楊梅 豆の極漆 梅 李 桃 櫻 梨 柿 栗 栗 栗
連壳 山茶 山菜 蔓 山直子 山梔子 杉 外 教 多
一 峯ハ松板より板ハ湿地を好ミ松ハ乾キ不ク好ミ
木立板ハ土より一ト一ト細密より一ト一ト
生立板ハ土より除く直りより一ト一ト三尺位
一 隨分よすし板ハ杉立方の通るよし松を池田
山の立方より好ミ杉外ニ樹木立方 細竹の仕方
一 別より傳板ハ他ハ土湿地との乾もの土との砂

地島のお考(別り極へ)

一海表新聞(半)地方要略記

一水車の半常水(半)分配六尺以上(半)場(半)川(半)魚(半)以(半)切(半)半(半)丈(半)八九尺(半)を(半)く(半)ぐ(半)べ(半)し(半)方(半)灘(半)を(半)以(半)て(半)半(半)に(半)し(半)

一川附(半)洲(半)山(半)開(半)系(半)開(半)地(半)方(半)要(半)略(半)記(半)ス

一沛(半)米(半)困(半)極(半)し(半)半(半)吹(半)稻(半)だ(半)て(半)干(半)土(半)地(半)上(半)場(半)米(半)干(半)味(半)を(半)外(半)も(半)借(半)授(半)と(半)通(半)お(半)ん(半)好(半)べ(半)し

一酒(半)造(半)と(半)り(半)東(半)武(半)近(半)二(半)三(半)十(半)里(半)と(半)り(半)水(半)車(半)の(半)方(半)を(半)づ(半)き(半)利(半)便(半)と(半)地(半)半(半)性(半)水(半)性(半)吹(半)味(半)と(半)納(半)米(半)酒(半)を(半)入(半)り(半)し(半)但(半)僅(半)儀(半)

な(半)し(半)か(半)ま(半)仲(半)入(半)ら(半)お(半)細(半)べ(半)し(半)米(半)津(半)出(半)し(半)地(半)の(半)り(半)小(半)酒(半)津(半)出(半)し(半)小(半)尺(半)之(半)以(半)へ(半)し(半)藏(半)建(半)方(半)の(半)儀(半)も(半)水(半)材(半)木(半)の(半)領(半)益(半)半(半)等(半)し(半)仕(半)方(半)の(半)一(半)し(半)商(半)人(半)の(半)白(半)紙(半)商(半)人(半)船(半)口(半)人(半)を(半)外(半)へ(半)と(半)不(半)の(半)人(半)数(半)を(半)半(半)き(半)お(半)用(半)べ(半)し(半)沛(半)米(半)の(半)借(半)代(半)紙(半)江(半)戸(半)納(半)を(半)山(半)子(半)の(半)り(半)を(半)半(半)了(半)ら(半)指(半)出(半)し(半)波(半)も(半)酒(半)和(半)さ(半)る(半)風(半)味(半)よ(半)り(半)地(半)の(半)建(半)方(半)道(半)具(半)仕(半)立(半)し(半)儀(半)借(半)授(半)と(半)通

物(半)沖(半)味(半)を(半)素(半)麴(半)沖(半)等(半)口(半)以

一(半)生(半)洲(半)と(半)事(半)を(半)生(半)製(半)飼(半)方(半)等(半)し(半)儀(半)浦(半)と(半)海(半)生(半)洲(半)法(半)と(半)通(半)儀(半)之(半)生(半)貝(半)類(半)と(半)し(半)鮎(半)鮎(半)あ(半)ら(半)い(半)か(半)り

らぬ是と仕立し—法生貝ハ慶岩汐漸
慶岩水子ハ八圃を入りあきし—石りき等あり海
仕立し—輪ハ千粒を以餌とし—しがハ悪あがる
不し—

一人救増殖ハ後ハ是又年毎ハ居村ニ應—二三軒屋
新ツ—昔半家と建庶子下人等ハ内耕作ヲ成就ス
と見立是と信—ハ農具の形も上より下之多子
者ハも昔昔杖持と下
古出ハ墮胎流産仕年等
ももも頭取とく用之
野月遠くハも建家とわ續—或ハ非人乞合取

之者をも一不、集め小屋位ハ波植附秋收山番等
此ノ同時を即ち補—尚地方啓ニ出ス

一昔ハ昔法仕立取—其ハの家居職耕作耘植
付取入とも組を以て取れ—ハ為大造成義ハ村長
庄屋取人等即成と言—ハ及材木繩竹葉土古訂
石尾指等ハ補あり—池川植節堤街道昔法—義
取新村 帳場 地あり—植あり抗打 茶たき
コトコト等あり—村ハ帳場割 卒ノ小帳あり—
着別ノ時取新村世話や—取吏より挨拶言あり

いんげん奴べし働らるち報る だんくくくと打べし
人歩拍子歌 いんげんと唱く
おまゝし仕り上りし時し僧儒役人之會地も遠き
の苦勞に申べし或は足場難不樂之あり入る天
骨折多しおあるを接持ししと云ふし此子傳
け之も形を儀て道をも感通不代神にも嘆やく
沛悦 いんげん早し法体 いんげん杯丁寧いんげんよ
お述べし

常、儒医寺僧神主等と云ふ長身し教方何々べし其

長身し儀上下考儀儒医僧俗男女し差別何々
くは道報君く為形 いんげん国内を人と云へ極 いんげんおん指
針 いんげん

一製衣 増造増し儀造醸 いんげん紙製 いんげん蠶 いんげん蜜 いんげん節
間物 いんげん炭墨 いんげん燒物 いんげん沖蠟 いんげん笠 いんげん葺 いんげん帷子 いんげん布 いんげん鳴
布 いんげん漆 いんげん紅花 いんげん麻 いんげん芋 いんげん鋸 いんげん吹 いんげん竹の子 いんげん松茸 いんげん錦 いんげん簞
烟草 いんげん打物 いんげん沙物 いんげん乳 いんげん衣 いんげん外 いんげん不違 いんげん杖 いんげん擧 いんげん園 いんげん用 いんげん品 いんげん有 いんげん餘 いんげんを
と いんげん他 いんげん園 いんげん賣 いんげん出 いんげんし いんげん不 いんげん足 いんげん何 いんげんく いんげんする いんげん所 いんげんお いんげん考 いんげんお いんげん當 いんげんし
一 いんげん子 いんげん業 いんげん福 いんげんを いんげんし いんげん等 いんげんも いんげん様 いんげん廻 いんげんせ いんげんし いんげん蠟 いんげん人 いんげん形 いんげんを いんげんせ いんげんる いんげん烟 いんげん草 いんげん

魚表下被革履傘笠竹皮弓大和風菓子
地黄菜打紐やすいすほくきみのめど
たし外き地仕来りいねる節より金と付賣買の便
よう志毛(一)能者志と力と添く是と弘を衆を励
ましむ(一)

一農高法川付し儀す米穀法材法物鍋凡法物城
内又ハほり物右法拂物枝打泥拂方は掛出し流
法庭子科法後園物法生測物ホと法仕出しぬべ
き外程教多可き(一)

一法調連法子當より法分国法城内外法掛ケた
之ケ法法法法外法法法法不の寺社法船方法道年節
法園法杖指し者法新法方端着し儀し法格式とい
法極々者より法物成し平均とい川合録分り
以程は法法より法なる以子交と中法に法なる法
法以を豊凶し考相法にお法法法法方不極く外
法物格寄と中者出来法感勢法法立し為と
失法多く感と又法縁法より法代たより古凶
法法し法物入より法法法法借金増歩拂海者

ホニ付消費多次多下り借借金かたみ何とて彼方
之之根をなすせらば借家におかぬ根を向に彼際
時借物入し時借子尚もて成たぬとて平生に借を
の借引合をな成或も出入り何付を不用し借をな
折し借めりとも成利拂万端法失強まを不願し假
畢竟ハ入るり他玉の財を自然の法に當て成し法
之を假ておんれおり又之を盛衰常の事ら卑
賤者長久し福志とや成て成るる事ら何とて夫
よりハ国半豪家と申内又ハ農民一統と申さぬか

節平生借下知を以て生活厚くし他玉の財を出入
おり之を借儉約し節規矩を以て操り向に借しを成
し他玉の志も借金に付し利を自然の法に
向に此の借を以て成し方おあま成るる事ら何とて
節を以て繁くお制故に警政事武備し外に色に
役人入るりお成りお方お成りお成りお成りお成り
可多成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り
成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り

人王は義理の可れども金と義理を犯さず申(自然に
時を海に流して苦くやうし死の意をてかくれし
なり)一しを儀解する尚時先づ此より流す事一
引合しと情を交へ何出流方へ返海身流を當ふ
一統出延引り流し何出返名返海と申記す所は波
身と流流は然此之を何出情相違なる人より外
いへ返答道に履くゆゑにこのハ扶持方ホとせしむ
之をゆゑに下り出入方ホとせしむ返海に流す返
自是より沙汰夫とて出入方も是用たつとて自ら流

儀は此上よりとて其の上ハ御物成をお増御助方と省き
以後随分の勤弁と成り儀中用は是を止しと御領分
御物成帳・御助帳・御事年知り扶持方帳細見は
一向より合するお流御ねんへりて惣御事年一何大
身小身とも役掛りしから七身五層にお定言餘也言
し内五ヶ一分人救何人とお限之ヶ身しる恭勤交
代御儀御方端勤方式日法礼式明を親執者
信贈答とせ止る知行は御上いへ扶持方斗と何
へ下女を人家よりし小島のを人の石をいへる波を扶

坊方是人家小吏入道之人扶持下後一仏事
普請医師衣靴壇場等類に類上より繕之十事
毎制度と定めて之自然書難信し依之と意
事お借せ取ひ之々成靴し後右し人教七知行永
續し之^{不_レより}神又^{自_レ賜_レ也}人教口稱五交之三十五
々^年佛儉約之法と立上之馬存法減し佛裏
人教佛土普風呂釜と考寺社明地社人僧医
師之類と衣靴修上之人教減少儉約一統お立
以^始之定めを一年先之國忠佛登上の由為也

叔佛儉約之節急度立波之凡及安心修程之定
以^至之佛分國の内村長座金名之町長之考未内之佛
且^以米大寺佛務子向佛子交之考其^以調進之節是
之^以他^以水^以波^以之^以引^以合^以借^以出^以之^以上^以又^以此^以領^以分^以之^以向^以之^以以
用^以金^以之^以後^以折^以之^以後^以使^以之^以然^以事^以之^以有^以他^以水^以波^以之^以
引^以合^以出^以役^以之^以考^以入^以用^以口^以入^以流^以之^以方^以出^以入^以持^以持^以方^以歩^以拂^以不
年^以之^以失^以隊^以上^以多^以之^以上^以之^以利^以以^以佛^以方^以法^以子^以持^以持^以之^以お^以判^以附^以
之^以是^以非^以九^以領^以分^以之^以お^以掛^以之^以以^以款^以又^以八^以流^以之^以お^以増^以之^以より^以
城^以方^以之^以考^以之^以儉^以之^以考^以之^以お^以計^以以^以之^以六^以箇^以分^以之^以不^以之^以

民の気障ともお成極は均に畢竟ハ困窮し程と成
り故以來一向又他處に調進をお除き外流之儀有
一統の申立月仕送る流考付を左町へ割符お定
り年し収納と云ふ却定いつ財宝を他處へ渡さる
仕方も納しとあり付も方は申出さる
無事之儀ハ度御答しと紙とら何後右邊答相
渡免角上しは為少納しと紙と請り若ハ下刑取之
又難儀せりまて若ハ御申付ハおらぬ極先下
刑と初ハ除之進言を左町に尋ね主とし名前役

より大儉約し法之り多し一統遠背お仕介言の紀
し下刑は此迄の如く進言し何後付時之り儉約
人数考付又下刑は此迄の如く進言し何後付時之り儉約
是又此の寺社に一統法仕立を人教し由女人の
業と為流男子ハ意能る是も又上りは佳用申用勤
心証と成す能く若ハ御答し儉約方之り常法と何付
進退動産し儉約悪く之り請りお顯し紙と何付
ひを大身小身凡大目附小目付とまらし格の定一
統と附合し會款しと紙と何後付却定大紙し

人柄を撰むは先役儀に成り方端劫定方より目
論出の義いふ格し義ふとも一統遠月仕る要候
中刑取之より上るるに候可右に成りたるの知切ハ
百姓方腰子中法に付し成りたるに候可成
わしきなり
ちと付他し流石一統等より成り候流石又より上る志
へも扶持方より成り候是又教通し後及成り候
り大秘く候法也
叔母城内の蔵内取年とも入用しおとのけに成

積年之角に流石の義より拂是又法より付し成り候
了しに成り候約の教し内候時物入る候に儀
い子傳は夢法不答旨意の代系都る難儀に節出来
お波取にお考節并備へし候しとより候し候に
計あり
右大儉約の法と云ふ候も成り候一統し中刑取之
より上ら申讀しとも自辭國に付し候し候も難儀に
成り候り限は暇不致に傍り出立し積り候しとより
了ら候り成り候に成り候し候も成り候し候に

法とて出

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 前より持百姓全法多之地と扱ふを以て上田なる地は
 場而るに在り至自然と及困窮或ハ株絶して上地ト
 成る免場多荒れぬハ株絶之地ハ井田作りては續
 船々困窮するおぬと云は振うを以てして内他種地と
 本流返しては波村方なりしハ市以彩々然らざる則
 必株絶百姓多お米村お續ふと云彩々
 一 言入考し後七堤根敷け村隈しハお田なる地よりハ
 極々しく多しと云しく下田下免し場不反別と
 本田荒れしる別と云應と知念せよお續なりと云むべし

是則入者し意彩り或ハ隣村下地場多し村は
 場而已し隣村に越えをせり又ハ此村に入者し
 あり傳若又兼不之他場と意彩農ノ地ナリ
 一ハ時ハ限極下地し場不之入者し
 一ハ制不之井田他も中なり井田他も則と
 不之其實ぢけ上納し一ハ年も多之九合
 一ハ傳他お成るはして村方し痛もあお成り是と
 一ハ入者し一ハ別入者し場ハ必茶樹木利潤多し
 一ハを以て之し官他し一ハ後不の益もあお成り取れり

鬼角口傳ト云モノハ
 利害納得善事出
 情ナリ

一 一ハ方村方長百姓の即年何ぞし
 一 一ハ土砂入し場不井田他も一ハ畑をれ内堤を築開發
 一 一ハし能熱他場合他も一ハ井路海池ハ恙生例
 一 一ハ用毎年上泥を川とテ是と以肥お入し鯉生例
 一 一ハ種よからと多入べし

一 一ハ桐多根苗多と重守中切ら地一ハも一ハ二もん茶
 一 一ハ叶し耐ませと多し一ハ末葉は枝を切し一ハ葉ハかき
 一 一ハ毎年茶も入し一ハ枝と服一ハ出の一ハゆり
 一 一ハある根よの株よの切花一ハ時え葉を切してけ

より切べし然らざれば株々なりさる事阿の取を
○以多味味の杜若ハ毎自猶田の如くくく之をさす
株之より花ぬし

一耕他開墾場も先月の備つとして無から田を
くべし灰不こち中り砂ホハ井の色々考あぬく入ん中
海池もてハ育かして去より土床土の持板さうく考へ
開墾さすし海池と山池ハあかるとよきとの地池を
よき走色を多く入れ入る中ハ海色かくな絶
くくく池ハかーくくく地と考と定とれ

らこれの事を精うま多く海池をさす及ハ利よ
ろ一故二園の内も山のみ谷と仕切深き或ハ其ら位も
有る大池多し海池系も考あかるとより越えと
以て山際の方を収めとお補べし山際田畑多し
運送もよかれば勝よあかれば海池も越え
まて山をさすハ早損ぬくはれも越えと考
用あつては方ましをち池ハ地震又ハ長
堤痛みとら近道流をさす事稀ハあり
あすけ用あつて格合よりハ

おとま過常こころをいふ根に者々をいふ維成根に衣袖
よりと幼年ぬべしを地震みか長向と音いあるお儀人三
拵抗お子尚夫まこしし心と付べし
或云農家と労を為貢と勤廉合と吟服と何とて一屋とを依
星と戴とさる志を志と犯し事と賤しりしてゆりり
とんをといふと慕ひてふ樂しと謂りや田是過る人姓
と勤ハ皆天職し夫業ハ固く實何そ勞と思へんや農ハ固
く年稼穡整齊して地產を樂と為力骨堅く肉健し
飲食耳し子孫をさきよゆしと喜ぶとさる

一山用を根ざし多取と悪草ぬえをと用察しつと先海
池んが備えぬ田穡他と一年仕付ら後廻を根ざしり
いし畑地仕えべし然らざれば根難悪草ふ絶して
ふ草ぬえ ありけ亦吉

一土地農業高職生産し稼も合のみし三合と二合しして
とぬめく増業何りとも幼年よゆしを時とゆはり
時ハ人救を救もね成べし先農を仕多るの第一なり
荒地ハよりし豪農ハ飲ケべし用の困ひあるを村
方と仕立て候ハ何れもし役人を門弟としてお平べし

豪農は亦る難波而も井田他にまぶし

一 米麦ハ天下ノ常耕ニ是と増小強いも常種を以て
とて

一 原野ハ平面開き道路ハ必廣く地車を用箱たて耕し
一 綿ハ必日何よりと以て他多しかやも扱けぬ
亦宜し地味他土厚く業してお始より溶とよくは
く之は畦以て仕立木の乃何く長とるに随ひを
を埴深くして乾をてとてしと竹吹時並に及ひ
多く吹葉も木を打たおしとめ葉を落し吹は

鬼角立根入るむ枝立て業を何と強に限を梨子
主人は括とれは枝口方へまねぬハ実なりと強に故
底と強さかめまき上へ作りむ寸位尺左畦他を
派をまきりりして早く乾を早ま之強に
かき出法口をて尺へ中強に仕まねといつ方をも
なくおまき

一 材樹との際作りを強に人の方のひと強にまき
風を日何よりと強に並木のやまよ強に
はるまき

一上より因事とは計ひ不度お守り法ハ荒不
堤足櫃原ホ農人ニ与一歩人足れ方をお減一毛尺余
お止メ種子農具と下行一腹と貸し材木と下行一
用お備へをよく一商人を運上りる物お減一歩中
買物ハ取波拂廻私便様とよく備へ利益の事多々
志望一

一民事ハ鐘界より始法の名と分り免し時
この内命よりお命を始助法を以し組
と減池川を正為教略略す有知
至知ハ熟猫等一

一毛尺法居村おけ堤根村際領境除之一角し場

小田町場ハ
毛上見易シ
大割場ハ毛
上難見分

不白地より不水部ヶ不地早の不水部ヶ不上毛を除
き下毛を除き中毛を以て半入とせし役人加る新
水一相役横目いづきとくちなる獨歩郡分いし
役人別くくし是と横目し下尺歩合波し是川合
せみづし強ハ波岸の由りしを及溶板木板を積ま
ししを改吹を以て目ししありのわきを除き其言
を尺七くけ小いし上方を尺五としよ尺五と一ふさ
かけ減一割を移りし一より尺五し一割を七くけ
と助法をよ用時七寸貢定免しし一函作七く米

いしを他ハカ上りし田米をさしおけしる則ハ
助法ニ等し

一 況し持地ノ内ニ増ふる法をも依令停止ル各百姓し
きことより後し地も他法有之かお決返ししめ致す
年を平均ありし鬼角をさるの百姓を之れお計ふ
金しお村入用支配し依し定めをさしし修財
ハ年一なりおめお佳おむべしけりし物かさるるに庄
屋村長の子孫とさしし村方の名庄屋とさしし困
よささし庄屋村長町長等お百姓町人ハ平生

言んし以て之をさしし名を若半教方園半觸後村
仕立し助お難おけしおをさしおれし一をの事とさし
計り給し

一 畦立地を雨ハ通ししを法とん樹木畑とけりし
一 東作毛付との黒土真お砂れ綿り稲種麦芋葱
一 胡麻麻苧等る大豆たごいし布ハ大根のり空豆
一 稗桐檨橙ホソと名の木楮蒲萄桃李栗橙り
一 松萩蔴大竹さ柳こもモハカリ取樹木系草防さ
一 十ヶ年以來村ハお取人お初りし法お成賣平
江戸金栗中
隣お引合

江戸の地 國産物 漆の山物

右是と云ふ名も真板川合ふ元メ方へお紀新古仕立ぬぐ
後功お合ふ紙

一 米旨伏 野荒糸 沼荒川 海地味 潮信 稻子 漢穠物
沼北石 盛畑 水園 百姓坊 山越山 糸 稻 豊凶 味 納金物
倉乃業 中乃業 糸 糸 俊馬と云ふ合をまべし

一 草花樹木を移植せし冬痛困入りの春よりより
冬痛の妙きもの秋より

一 糸用天の結糸植物 胡麻 薩麻 茅 茅より 乃業

大豆 麻 枝木をよりより草よりを稲より

伊豆の方言
東風をなす山と云ふ 東玉の方言也

一 拜領地 但し除地をする 分國酒造造製表を撰

一 茶之事 実植より... 方一尺は方後 肥土を入五六
寸圍にわけて入るべし... 畦の入り口はもと草際なるも
この目より一厘し 茗茶仕立の内より かり茶摘茶仕立
ふ同生之茶と云ふ所ハ他ノ葉を及下屋凡廿荷之
十荷は中荷 中荷後と云ふ外 弱油物之と云ふと
土地石より山出の石より 砂地玉玉杯ハ亦宜を腹

一多龍茶ハガシ但し撰茶若茶仕立お多撰茶仕
立七撰茶ハお多撰茶之初めとち死と云まより二のし
もしハおし認めお撰より分ケ並む一並みなりふ
加減ありし上六を及ぶ世目龍中八捨メ目位も取れ
上六茶目百目廿廿百目位も中八百目廿百目位より
撰茶若茶上茶の層と用是と上と凡折巻厚金等
百目廿七八位撰茶と上茶の通一粉と利し下
並み併務よし

一猪山ハ人ハ山猪とも云又ハぬとも云阿ハ是とも云ハ

一野苧りま苧物とりの皮と入ハ人ハとまをハ百目位
是ハお依物とハ幅廣粉おし仔細りと捨メ目廿六
位より是とも撰茶位と有之撰ハ秋切巻と並並皮と
取テ又粗皮考皮先とくことげ上仕立と有り
お地人おし多とよふし正然撰他ハ造らるく他
此白くお上仕立とくことけ白紙とて紙出
りし撰列有る部なり尾紙とて冠とハ上紙と
アテハ糯米の粉と入多し多し子青とてこげと
外種との紙と作り尾とて

一 椋根皮は春六枚秋七枚上皮一枚は厚位百枚束
椋目は大目捌方をひちぢしを腴地すし皮の多から
大丸土地の要より多し

一枚は砂地乾地を忌む故に小山立てもを石より
土山川端大山岩山多し土不山よりより生え
よしを日清より方水風を防ぎ土不枚竹とも相合よし
松を乾地砂地土不風の生えすし湿地を嫌ふは松
立山とすし土村も南多しより土村も不産せ人別
別割に刻令了三月末立山の地刻とすしを坪に六

七本より七本と苗の大小より一方何れも生立
以後次第とすしと細し何れもをばしを抜へしを種
了木に之通しを走ると川相水の保もすし根際も
水海とすしし厚きかりお米の要下より物ある日
度いさすしし時秋九月ころをと集めよくかし指
入かすししを中よりよくをせ出の様子とわを苗代れ前
も余を風より時十以下よめしを山より孝子を波
させ至べし熱るお砂山小松うしにてを君ヲ粗くよむせ
立よ郷しかり細密より能よし枚又より方口改る

分一

一 五里四方世二町平田凡五千石 十里四方凡五千方石

一 黒土とともまいたし水はうの物阿くく作らるし腹
入振らる少の格別之山土福も砂地もさ細くうの方
より之より方なり

一 畑地も夏他も熟し地は夏年貢玄怪く秋冬年貢
麦収めをね増し

一 土地は冬は儼々竹村と産屋は厚く儼々先徳郡と内田
窮場且も竹儼々和何郡とね考へて郡分し産屋凡

廻文とひ日泥れ定ぬ評定所へ以石取所也次也と以
番附しし初番し村方と先づ此仕立をべし以川付
管華等儀他付吟味等万端は一村に仕立を凡儀
を四方へ尺尺べししまよりして順に仕立をべし

一 池井路堀方し儼々大私版堀るる不し小下おとれ之
物くし底仕切も不しをべし廻り番儀より土砂
止物入しをらるしより種子をくしをべし水一尺二尺
平地より遠く程は保の堀動無きべし

一 利水大池仕立しり管通堀下倉入築きし時池

搦ノ如儀志土の上をこつてゆくメカカたるき上下ノ
まゝなる流たらしむとまづし栗ふ直中ぬかハカたるき
一尺二尺のなる下木をれおとせ一筋のくをせを
まぐべし挿ハ打廻ししハ何れすまづし上をかさ
打こまづし以細く束廣く儀とし約の此等ノ
通上は女押ハカス何れし池の深さ次第なる尺八三
より九ツ位と池の内堤まをひるむり丸葉の葉は
カ全口石より或を樹木を原ホ土砂防ぎ有べし
取減地ハ如儀の勾配急ハ外勾配ゆるくし堤も

卑く内浅き方よし

- 一赤金氣湧出肥方儀地ハ堤儀の産玉ト一畝ニ之
能從テ入るも利金氣お止利腹ハ成
- 一川切せ土砂入場ハ多くハ小石を砂子也ハ根お成
以場不中ノ本田ニ仕多クハ成りしハ之し勾配畦
立おと出来難クまづし根成ハ松まともまとも外仕
付成まづし新成お薄くしておより葉柳をり不地
栗ノ形も然るべしを樹本仕多て小石を是は種番
不掃不くおこさ成を制しし十ヶ年ハ毎年くは

一 外人入來り少ね成枝打落るおかしき等々入るるに
 一 川表拵拵打ハ竹端拵うけさしつし繩多之方引之
 人してたこさんやれやけや次也之打べし
 一 水帳さハ御圖帳と書付べし
 一 主人儉則ハ一國富此故儉大人之師萬化之柄國家
 之寶也

此中在町と申領分一統水儉約觸み之上役りるら
 刻り備りる此方端簡略と申あきらめ凡合書し御
 省之かり物す外也お減し御觸後し規模お見へ給て位り

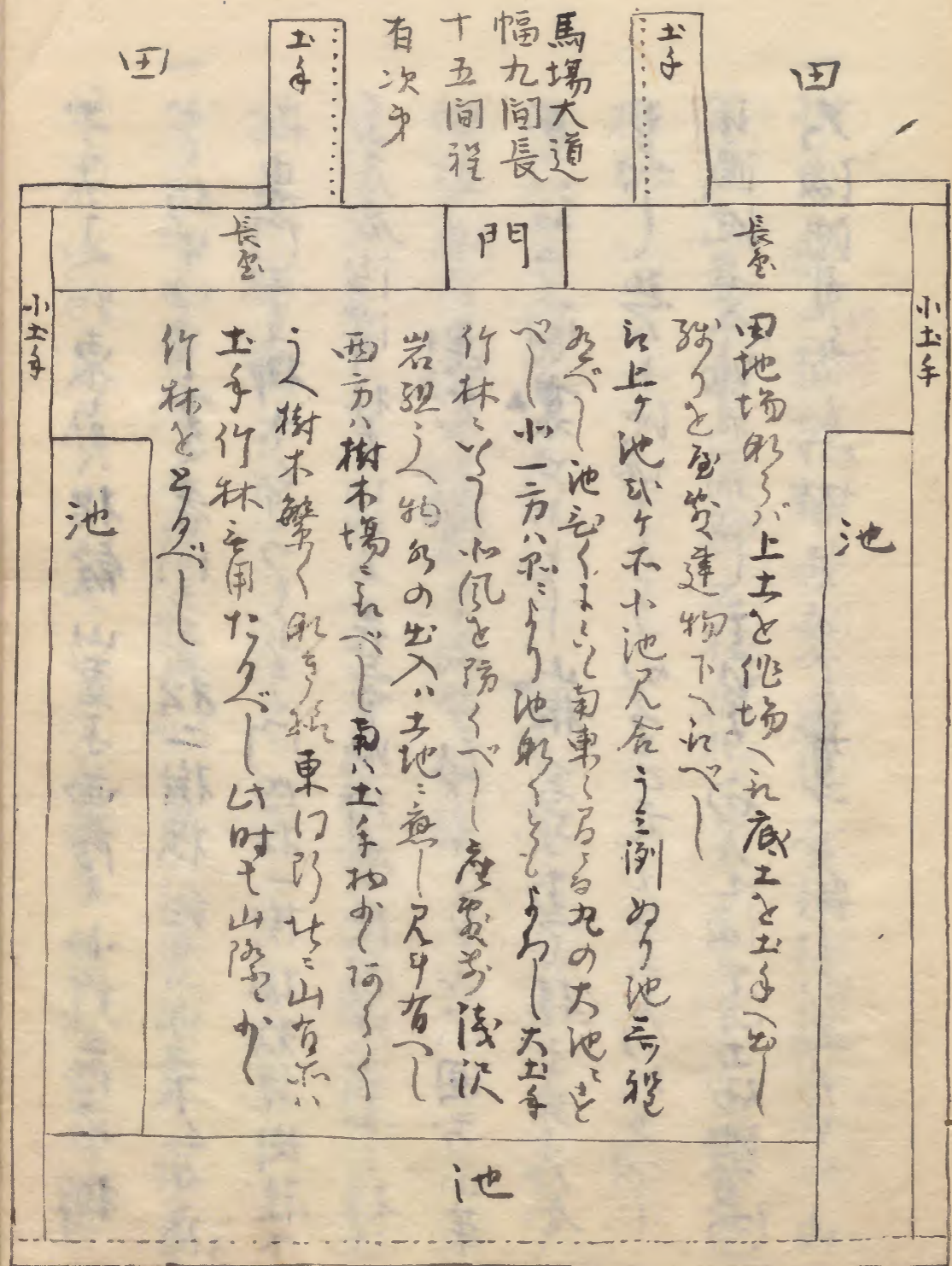
一 清入用物お場帳 清入用物負お帳おみべし
 一 専ら之端ぞ為るべき紙の五枚と申て五枚のきもいさくと死
 十枚枚命をいしと上と墨をるぬを為法二遍禮川べし
 一 〇燈心もふとまを細きとと除き中取るとより少湯とさ
 一 〇差油書べし 〇油ハ五六ヶ月禮かきしと書付べし
 一 清儉約ハ (清貯方) 役何人 (惣方) 役何人 (定入用)
(御定) (横目) 式人 (定出) (毎月) ね場帳
 臨時清入用別仕布一 御定ハ御定より五ヶ切仕とす
 清と御定の御さぬく役くみべし
 上の清儉約士の直道を守るおあわく譜代出取し士可

兼之連人困事を經濟より多しは家も立則ハ事難仍
是事以事を成り有人功を成り在るといふ天星辰よりし
人功を為さむむりハ此よりいし連人何りと之も上より
法をふす則ハ功薄し連人と之とも上を割らるるに能は
是事と之より上より法をよくなりゆりゆりゆりゆり
一沛考法方 由買物方 調達方 沛人足方 沛物方
沛儉約のち細くしを皆と縮意何ぞいし以減編と專
してよく却るる一しは條下におわく國の盛衰と見る
此を是と沛儉約五條とす右し法を能はるるに成

古法を弁と癸年一ハ後調達自在と見るべし
を沛儉約方并檢尺役は任人ハ割帛世に有
一は沛儉約、并江戶國方京大坂とも劫定勘定格
負救を定む内一割二割法減少仕方有べし一時
ハ其ハお仕書し劫定加役も用人の老法一ハ
一魚川い産ハ中ひさく灰海をいしハ尾形しハ
ろくハ豎長又幅せよく雜式ハ但やうも新多くも
ハハ商船たき下石尾く乳を入火氣と助も廻り上
厚くゆりもせくと川やうも何らハ燒きと

一 仕出し世帯或は電燈仕廻し仕方の之大なるが柄、
 お用ても御し風呂、主人入、二、三人扱其人、三、四、五人扱
 十もあつたハ式人入を相べし夏ハ雑釜仕也飯と一口きき
 一部をハ大初より進仕進汁ハ毎日ともお用風呂と口の
 いろいろ停止するべし

一 池土著ハおくの集ぬり申さく口より高あつる地心は厚
 金仕立きツ土著は用べし



土手之物東南ハ招穀山查子西蔭キ小竹蔭キ半榭
 小竹中津邑ノ寺表門カ子松二樹梅紅葉少下ノ寺河
 萩裏門土手柳下ノ寺門内松一樹梅粉籠肉桂下
 草尾左淺澤杜若何やめ花帯ぬ川骨沢浮汰ノ中株社
 切ノ如色連朱ニカ竟糸極西ニカ主園歩ひゞゞのぐせハ園ガ山菜
 更ニヤラ蘭裏口ふと〜山椒窓ガ南ニ榭キ外見念
 志ノし惣石池堀ノりともか皇の走王とあ考仕立べし
 和減池ハ入場ホ〜むしき器りかを海子の土砂池者じ
 大海池用ありとけりる海子ハ有ても御しかぶし

一樹木 梨子林檎 梅 杏 李 蜜柑 金柑 柿 柚 九年母 山
 菜更 山查子 枣 葡萄 石梅 枇杷 比呂メ 甘柿 夕ク 銀杏 栗

櫻桃

肉桂 山茶 シヤラ 大山 ハクサン シデゴ 豆 フジ 大テリ クロモ
 蠟梅 唐ヒハサワラ 梅 モイブキ 梅 桜
 モッコク モチ カナメ モクセイ 多羅葉 石南花 柳
 桐 秋栲 桑 カシ

一草花物 百合 芍薬 牡丹 菖蒲 菖蒲 桔梗 小菖蒲 罌粟
 日ノ花 水仙 烏扇 ホウキ レタニ 金錢花 葵 大仙翁 加ニヒ

熊竹 負人蕉 蘭 工三ッダ 山吹 黄金花 負女柳 セシヤウ
セシ下ツケ ガク草 鳳凰 每慶 夜 千日紅 白^{シラシ}菱
ケシケイト ^{指石丸}シヤガ アシサイ 時多 夏水仙 唐ク草 五七子
女神花 ^{秋夏}ギホウ^シ地黄 川芎 當及 小人参 ウト
ヨリ柳 雪柳 石竹 花ラ^シ唐^シのさ^シ 杜若 秋^シい^シ
天門 麦門 虎尾

一四至ハ 日方^シ境 傍尔^ハ下^ノ礼^ノ分^ノ杭^ノ境^ヲ分^レ下^ノ 阡陌^ノ道^ヲ
^{南北ヲ}阡^ト云^ト ^{東西ヲ}陌^ト云^ト 地下^ノ目錄^ハ百姓^ノ人^ノ帳^帳
^{仕立帳}取帳^ハ水^帳檢^地帳^帳
文書^ハ田^地ノ^名券^ホシ^カ物^ナ 納^方ノ^名貢^収方^ノ 海^例 万^端入^用之^也
^{次第}先^例

容^限ハ^玉内^ノ限^ミ信^ト者^ト云^ト田^地と^シ 隠^田 他^種多^田地^檢地^ノ分^分
^耕他^ノ貢^トと^シ収^取者^ト云^ト 東^他と^シ耕^他し^と云^ト 連^ハ肥^ル地^也 迫^ハ瘦^ル地^也

可^閑他^ノ地^ハ荒^地の^名也^也 堤^井溝^シ 修^固ノ^農人^ノ役^也
佃^ハ治^田と^シ御^而他^ハ地^既ノ^名種^米を^他と^シと^シ是^レ地^新也^也
^課菜^代加^地子^乾る^物と^シぬ^地ハ^菜と^シと^シ

良^ハ梯^翼柳^坤楓^乾松^澁沢^沢地^等也^也
木^と河^りふ^東柳^梅桃^李ヲ^植ち^是レ^大略^也
一^鯉子^取根^五六^寸以上^ノもの^也 此^雌魚^と冬^{より}活^き
小^池の^餌河^りふ^入を^ハ十八^夜と^シと^シわ^けり^地入^さり

一 銅山始々鋪口と云ふと革命とし初試堀と同堀と云
銅多ク出クとサカルトシ支配の役不と助場と云浦口と
其府と云堀とのと下敷と云或ハ浦役床家ノ子山
浦役浦堀釜ち工焼出シ浦の素吹ち工呂吹大工浦を
浦といえメ等し人扱ふべし

利の道具の用と云ふも口よりハ神ませさくいたる神
うそこき まさこハ神(き) あそ木の神やうと云ハの
碎櫃 ^{カキメツチ} 竹水どい 為ぶあやうし ^ハ 神より ^ハ くらこき
ザー 捕目 孫八 やりもち だじ 炭ざし 申うぬき

ガクも まさとおし道具め

水抜 風まわし 大切口 田とち けや木 ^{カキ} 炭(白)

淘治 ^{カキ} 美鞆 ^{ニフキ} 日本山海名物ニ因アリテ也

一 いろし ^ハ ちやとをらたと云たとませと云細松
或被まのし ^ハ け船 ^ハ けん ^ハ ち ^ハ 若屋人 ^ハ ち ^ハ 船 ^ハ 追込 ^ハ 色尺船 ^ハ 艘 ^ハ け ^ハ 船 ^ハ ち ^ハ 網 ^ハ ち ^ハ 引 ^ハ 合 ^ハ 一 ^ハ ち ^ハ ち ^ハ 船 ^ハ ち ^ハ 人
扱ひ人 ^ハ ち ^ハ 人 ^ハ ち ^ハ 船 ^ハ 役 ^ハ ち ^ハ 人 ^ハ ち

一 炭運上 九列船をねらちトニち ^ハ あり但し船のち ^ハ ち
此言何程と云極ハ船をみ百名積ち凡百名積

薪ハ五百石積らば百廿石中炭の半減シ

一 蛤甚良ヤ一 八月九月に砂地のワの満干候ふ入竹黄

と云く圃を至べし

一 漢獵場より通財益不地役し土庄大邑と云以て

居宅つらうり

一 蠶事より振事 桑の葉を毎三たりと云半定法也

蚕の生長は適ハ口食と云く也 秋分と又極子を窺ハ

桑と云ふべし 兎角風は候々さう極と云淨たもふの

煙者の臭を忌べし 糞多くなり候は時ハ外の蓋

〔桑と云く〕 蚕と云ふ小をけらうりし蓋と云く魚し一

と有り二と有り大と有り小は出葉と云吟歌を

上も艱神候是け時と云り桑と云ふべしと有り

しりハ蚕一統しりハ糸一と有りニ甘と有り又葉を

食もろも有り但しぬきける葉を忌たり結繭

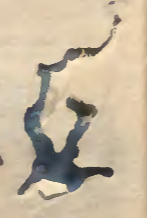
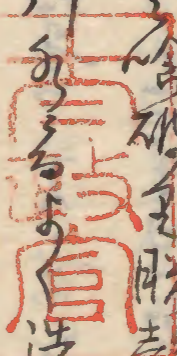
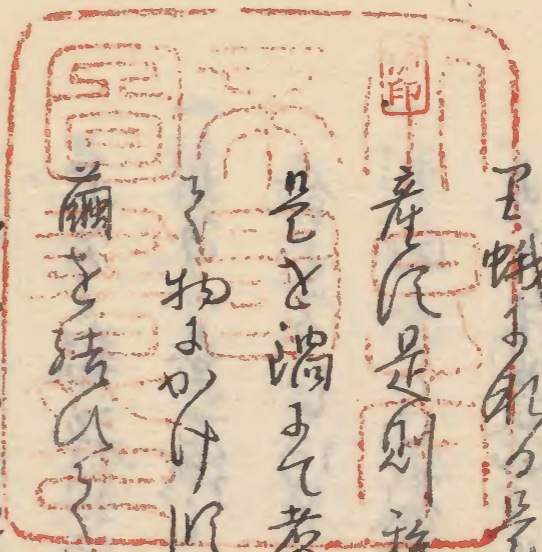
し時分ハ日数最初より三四十日に葉を食し是て

よく生長しし首の廻を節々入蚕の形光彩有り

葉と云ふ自然と云内の虫管の小隅ハ多繭を仕

りけ時時ニ繭を造る候は時ハ麦ころりと一極

くらりて蓄の毒根よりしをハ追て虫是よりハ蕪
 さしつととも蕪をきつらるとハ十リ斗とさく喰破
 玉蛾もれは是と紙上へのせ玉ハ蕪尾して卵と
 産民是則種子しハ喰破玉ハ蕪殻ハ線ま形もど
 是と端まて黄子後川ハ喰破玉ハ蕪殻ハ線ま形もど
 物よかけけりハ喰破玉ハ蕪殻ハ線ま形もど
 蕪を結ひハ後ハハ喰破玉ハ蕪殻ハ線ま形もど
 煮器なるかき止せば糸口よりハ喰破玉ハ蕪殻ハ線ま形もど
 蕪をきつらるとハ十リ斗とさく喰破



此玉がーかききたうとーい又外のりくハ標する
 かり姑めくハきつらるとハ十リ斗とさく喰破
 形又蕪をきつらるとハ十リ斗とさく喰破
 たのり

